

会 議 要 録

会議の名称	令和3年度第3回酒田市文化芸術推進審議会
開催日時	令和4年3月30日(水)午前9時30分～午前11時
場 所	酒田市役所3階第1委員会室
出席者	<p>○出席委員</p> <p>中川 幾郎 委員、熊倉 純子 委員(リモート参加)、市原 多朗 委員、 工藤 幸治 委員、向田 宏利 委員、田中 章夫 委員、阿部 直善 委員、 加藤 聡 委員、加藤 真知子 委員、白旗 定幸 委員</p> <p>○事務局</p> <p>鈴木教育長、池田教育次長 (社会教育文化課) 佐藤博樹コーディネーター 阿部課長、池田主査兼係長、佐々木主査、菊池主事</p>
<p>1. 開会(事務局)</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 協議</p> <p>(1)令和3年度事業について</p> <p>事務局</p> <p>資料1・2についての説明</p> <p>意見交換</p> <p>委員</p> <p>コロナ禍のため様々な制限があるなか、多くの事業を中止することなく実施できたことが大変良かった。それと同時に前年度の課題であった連携強化、人材育成が事業全般で実施されたと思う。以前も話したが、どうしても地域格差が生まれる。会場が出羽遊心館、希望ホールに偏っており、他の管内でもミニコンサートなどを実施し、より多くの地域の方が鑑賞する機会を増やしてほしい。努力を重ねているようなジャンルを取り上げてくれたことに感謝したい。今まではクラシックが多かったが、ポピュラーや文学まで幅広い分野に踏み込み、市民に密着した事業展開をお願いしたい。それと同時に、この人口減少の中で若い世代を育てることを目的に、小学4、5年生を対象にしたアウトリーチ事業を行ったことは非常に重要だ。感性の形成される時期に一流の芸術家の演奏を聴き、体験させることはこれからも続けていくべきだ。また、小さな幼児たちが芸術にふれたり、本を通して想像力や人とのコミュニケーション力を身に付けていけるような事業も大事だと思う。ぜひ継続をお願いしたい。障がい者の方たちからは、コロナ禍でより積極的に文化芸術に参加していただくことが必要だ。</p> <p>委員</p> <p>コロナ禍だが、中止することなく全事業を行えて良かった。事業の中身も、障がいを持つ子ども、小学校の児童生徒を対象にする等、幅広く実施している。委員の意見にもあったが、今後違うジャンルにも展開していくことも考えて欲しい。今日の資料については会長のいうポイントを押さえており、また、とても見やすくよかった。いろいろな展について、今回の会場は遊心館のみだったが、もっと作品が増えて遊心館では入りきれなくなるくらいになれば良いと思う。今回、個人出品が2品あったが、より早い段階から募集をかけていたなら、施設に通所していない人たちの出品が増えたのではないかと</p>	

思う。ボランティアについて、一般の方・学生が7人、ボランティア連絡協議会から15人、計22人が参加したが、もう少し広がって欲しい。佐藤タカヒロ展をきっかけに、「バチバチ」の漫画を読んでいたが、何かとコラボできたら面白い展開になるのかもと思った。

委員

アーティスト・イン・レジデンス事業では、山形交響楽団のコンサートマスター高橋和貴氏をはじめ、著名な音楽家から、親しく会場のお客様に語りかける説明や声、そういうものを各々から聞けたというのは大変うれしいことだった。クラシックのコンサートでは、最近、特に観客とのコミュニケーションを大切にしており、プレトークなどがあることは大切なコミュニケーション手段である。アナリーゼでその楽曲の背景を解説することはとてもいい試みだったと思う。このようなやり方は、行政でしかできないコンサートの形であり、対象の年代層の広がりにつれ、ジャンルも広がるだろうが、「行政でできることは何か？」ということを考えて今後も続けて行って欲しい。

委員

今年度の事業は、ジャンルも広がり内容も今までにない深みのある事業展開だった。中でもアーティスト・イン・レジデンスやダンスの成果が大きかったのではないかと報告書を読んで感じた。芸術家の直接指導やオンラインでの指導、交流を深めて児童や生徒がより良く成長していく様子を多く読み取ることができた。今年に入ってからリサイタルが慌ただしく続いたが、実際のピアノリサイタルの時、いつになく子供の姿が目についた。中には、親の袖を引っ張りながら希望ホールに入ってくる児童の姿もあった。アウトリーチに参加した児童が、74名もリサイタルに足を運んだことを、この資料を通して知り驚いた。このように子供を通して親世代が文化芸術活動に引き込まれていく、事業の裾野の自然な広がり的一端が見えたような思いだった。この事業をより良く継続していくことが今後の大きな成果と芸術文化の広がりにも繋がっていくと思うと同時に、期待感を強く持った。いろいろ反省点もあると思うが、それを修正しながらまた続けて欲しいと思う。アートスタート事業を私も講師として担当したが、生後4ヶ月の乳児から参加があった。「こんな小さい赤ちゃんも来るのか」と驚いたが、親が抱っこしながらしっかりとリズムをとり、自分の体を通して子供に音楽を伝えていた。読み聞かせでは、赤ちゃんは赤ちゃんなりに絵本を見てくれていた。0歳から全世代に芸術文化は繋がるということを実感している。

委員

1点目として、アウトリーチは非常に良い試みだった。今後は、それらをHP、ユーチューブ等を利用して他にも積極的に配信する等、フォローが必要だと考える。各々の小学校において、バイオリン、ピアノ、打楽器等、違う楽器が演奏されているが、それを動画で撮影し、例えばバイオリンを聴いた児童には、後日、他の学校でのピアノの映像を見せるなどしてはどうか。2点目として、酒田には、希望ホール、出羽遊心館、酒田市美術館以外にもヘリテージな建物がたくさんある。それらを利用して、いろいろな演奏会や展覧会等を行い、会場からもアーティストが刺激を受け、新たな表現を得るような催しを酒田市が提供してもいいのではと思う。

委員

令和3年度の事業報告を見ると、各分野でとても充実した活動ができていて、コロナ禍の状況においては大変よかったと思う。それぞれの参加者、関係者の声も大変良くまとめられていた。私は学校関係ということで、特にアウトリーチの部分で、各学校、ダンスも含めて子供たちがいろんなことを生でアーティストから体験することができるということは、とても素晴らしい体験だったと思っている。本校にもバイオリニストの高橋氏が来てくださったが、子供たちに本物のバイオリンを実際に弾かせてくれ

た。ピアノの鍵盤を叩くことはできても、バイオリンを弾くということはなかなか経験できない。それを子供たちが、難しい格好をしながらも音が出た喜びなどを実際に感じる事ができて、とても良い活動だった。話し方もとても上手で、子供たちの気持ちをうまく乗せてくれた。他の様々な学校にもいろいろなアーティストが行って、それぞれの体験ができたことはとても素晴らしいことだった。参加校がこれからも伸びて、各学校の規模やいろいろな条件が違うが、多くの子供たちがそういう体験ができればいいと思っている。資料にある、参加した子供たちがコンサートに行っている数が興味深かった。どうしても学校だけの体験で終わってしまいがちだが、そこからもう一步、家族を連れてコンサート会場に行くなど、1人でも多くの人に繋がっていければ、より学校と社会は繋がっていくのかなと思う。コンサート来場者数をもっともっと伸びていくことを期待している。

委員

可能な限り各事業を鑑賞したが、高く評価してよいと思う。事業報告にあるとおり、本市では市民との連携、コーディネーターの育成等々が今後の大きな課題であると考えている。これまで例えば、ボランティアの募集をしてもなかなか集まらなかった。協力しようという意識改革、自己変革をしていかないと、酒田の芸術関係の伝統的な遺産が失せていく。その対応策をしていかないといけないと思う。そのためには、協力し合う信頼関係が必要であり、今後その方向でみんな努力をし合い、楽しく豊かな雰囲気や幸福感が持てるようにするべきだ。我々も社会包摂の研修、勉強をするべきだろうと思っている。なお一層今後前向きに協力し合って情熱を傾けるため、市は、関係者はもちろんのこと、市民全体に丁寧に説明する責任はあるだろうと思う。

委員

基本的にバランスの良い事業の進め方で、方向性も良いと思う。2ページ目上から7段目、“クラシック音楽で多く実践する理由としては”と言う部分があるが、専門的なことを言うと、クラシック、ポピュラー、ジャズとでは仕掛けのされ方が全く違う。クラシックは、一つのメロディーに対する反対のメロディーがあるなど、多くの仕掛けがある。内容が深いので、普通に聴いていると分からなくても、知らないうちに多くのことを聴く側は受け取ることになる。だから、クラシックは総合芸術として消してはいけないものだと思う。9ページ5行目にあるとおり、仲道郁代氏がアナリーゼで、ベートーベンの楽曲について同じようなことを言っている。また、22ページの「ダンス身体の可能性と自由性に気づき・・・」と言うくだりがあるが、そういうことを酒田で進めているということは、日本人の音楽や芸術に対する鈍さを喚起する意味でとても重要なことだと思う。

委員

事業報告書には細かく記録が残されており、行政職員は異動で担当が変わることを考えると、記録を細かく残しておくことは非常に重要だと感じた。中身に関しては今後が楽しみなところだが、まだ攻め切れてないかなという感じである。

会長

0歳児から小学校の子供というところにターゲットを当てたことは政策として間違いではなかったという確信を持った。特に子供が親を引っ張ってホールに来たと聞いて、非常に感動的な場面だと思っている。それから私自身が実感として持っている確信は、英数国社理ばかり勉強させても子供は賢くならないということだ。とある企業の報告にあったが、朝から晩まで勉強しろと言われる家庭の子供は、言われない家庭の子供より平均的に数学も国語も15%ぐらい点が低い。子供と親と一緒にコンサートホール、美術館、図書館に出かける家庭の子供は、数学と国語の点数が大体平均20%高いというデータが出ている。首都圏の子供たちは文化的な環境や社会資本のレベルが高いので、相対的に学力が高くな

る傾向が指摘されている。そういう点から言うと地方圏の子供にはハンデがある。そのハンデをどのようにしてレベルアップして上げるかということに関して、行政の責任と芸術文化関係の供給元の責任というのは大変大きい。アーティストというのは社会の資本であり、その資本の供給が足りなければ、東京、名古屋、外国から呼び寄せるべきだが、地元には資本がある場合はそれをいかにうまく教育に展開するかということも考えるべきで、それはサステナブルなSDGsの考え方に繋がるのではないかと思う。それから、いわゆるホールの協力者のコーディネーター教育が大変大事である。例えばホールのレセプションの仕方などを確立されることはいいことだと思うが、私はそれとは別に、文化の地域コーディネーターをもっと養成する必要があると思っている。学校とアーティスト、学校と地域、アーティストと地域、アーティストと子供を繋ぐなど、いろいろな意味で繋ぎ役が今、欠けている。地域コーディネーター、文化コーディネーターが市民人材としてもっと必要である。行政側もコーディネート的な研修を受けないといけない。民間の第三者機関とか、専門家に丸投げすればなんとかないと考えて失敗するケースが多発している。つまりコーディネート能力というのは行政内部においても、市民側においても増えないといけない。コーディネーターを増やす研修をすることが、中長期的には酒田市の子供たちのいわゆる基礎を上げて飛躍的に伸ばすことに繋がる。子供の未来、酒田の未来のために芸術文化が必要だ、という強い決意が今必要だと私は思う。

(2) 令和4年度事業について

事務局

資料3についての説明

委員

多岐にわたった事業だと思う。出演者の都合もあるだろうが、令和3年度は事業時期が9月以降に偏っており、冬場の事業開催だと少し参加し難いと感じていた。来年度以降の事業計画を立てる際も、引き続きバランス良い日程を心がけて欲しい。

委員

市長の市政方針には、文化芸術における社会包摂についての記述がきちんとあったように思う。試行錯誤しながらではあるが、これまでの理念に沿った形で進んでいくものと期待している。令和4年度というわけではないが、山居倉庫が国指定史跡になったということで、これに関しても何かコラボできないか考えても良いのではと思う。

委員

人材育成事業については、特に行政職員と書いてあるが、酒田市役所の職員の方のたくさんの参加を期待したい。“芸術家・地域ふれあい事業”のアーティストは本当に素晴らしい方たちばかりで、コンサートを聴けることを本当に期待している。

委員

私も人材育成ではぜひ意欲的な人が受講して、実際の業務で活躍してくださることを願っている。研修は一年がかりのようだが途中でも事業にも参加しながら、実際の場を踏んでいけばより現実的な研修になると思う。事業の実施時期だが、ホールの予定や演奏家の都合にもよるだろうが、なるべく満遍なく配置していただくとありがたい。希望ホールのHPをもっと宣伝して、ぜひ周知を図ってもらえたらいいと思う。

委員

青森県出身の劇作家寺山修司が「書を捨てよ、町へ出よう」と述べた。酒田でもホールや美術館を出

て、街中のヘリテージな施設でのコンサート、展覧会等を企画し、文化芸術の重層性を試み街の活性化を図ってはいかが。

委員

事業計画に則って自由に伸び伸びと楽しくやれる向かい方をしていただきたいと思います。

委員

事業計画について、これで問題は全然無いと思っているが、何かもう少し楽しい事もできたらと思いつながら拝見していた。

会長

0歳児から入学前までの子供と、小中学校の子供たちを対象とした芸術供給事業をいよいよスタートしたということについて、大いに感謝したい。0歳から3歳ぐらいと、3歳から就学前ではやはり違うので、今後これらをどのようにうまく分けたり効果性を追求していくかが研究課題かなと思う。アウトリーチも、小学校の低学年・高学年では違うし、あるいは中学生でも違う。課題として表面化していないが、今後、学校との協議の場を設けて先生の協力をいただき、より効率的なやり方ができるようにシステム化したらいいと思う。また、隣の鶴岡との連携も非常によいと思う。鶴岡と酒田はどこがどううまく交じればいいのか、どこがお互い違うのか、アイデンティティを明確にする研究や催しがあってもいいかなと思う。それから今後のことだが、芸術は人権に関わることだということをもっと徹底してほしい。そういう意味ではこの条例は本当に大事な条例であり、計画も大事なものである。今後事業をするにあたっては、条例に基づいて実施していること、計画があることを市民に認識させて欲しい。人材育成については、研修する際には社会教育文化課だけではなくホールのスタッフも入って欲しい。もちろん財団、美術館、郷土資料館、公民館の人、できれば図書館の人も入って欲しい。酒田市の計画のエリアに図書館も含め、社会教育施設を全部含めているわけで、そういう意味で主旨は大変広範な計画である。

自治総合センター、(一財)地域創造に助成金申請を行っていることについて、大きく評価するに値する。市の財源だけで事業を運営するのではなく、助成金を必ず取り入れるという姿勢が大事である。この点は、委員の皆様にも共有して欲しい。

事務局

ご意見ご審議誠にありがとうございました。

教育長

年度末のお忙しい中、こういう形でお集まりいただき、多くのご意見をいただいたことに感謝している。令和4年4月から全部の小中学校区で小中一貫教育がスタートする。各学校では、15歳のあるべき姿というか、どのように育て欲しいかという思いを共有してスタートし、9年間の時間軸で様々な取り組みを行おうとしている。その中に、例えばスクールプログラムをどのように位置づけるか、今この審議会で頂いたご意見をその9年の中にどうやって織り込んでいくのが良いのか。それぞれの学区の中で話し合う場を設けていきたいと考えている。そこで現場の先生方や地域の人たちから、ざっくばらんな意見をいただきながら良いプログラムを組めれば他にない9年間の教育課程ができ上がっていくのではないかと思いつながら話を聞いていた。今後も、様々ご意見いただいとお力添えをいただければと思う。

事務局長

今回の審議会をもちまして、審議委員皆様の2年間の任期が終了となる。毎回貴重なご意見を頂戴したことに、感謝申し上げます。この2年間は審議会から答申をいただき、酒田市の文化芸術行政の方向性がようやく定まってきたと感じている。先ほど阿部委員の発言にもあったが、市長は施政方針の中で、

文化行政に限らず市全体の施策の視野として社会包摂を打ち出してきた。ようやく社会包摂が市全体に広まってきたという感じを受けている。この方向性を維持、堅持しながら、今後も文化芸術に関する施策を推進して参りたいと思いますので引き続き皆様からご協力いただければと思う。

4.その他

事務局

ありがとうございました。それでは以上をもって本日の酒田市文化芸術推進審議会を終了する。

5.閉会

【以上】